

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

# 異年齢交流 「学習支援と職業体験」事業



活動実績事業報告書

**Eince 子供応援隊**

連絡先

Eメール: [eince@tau.e-catv.ne.jp](mailto:eince@tau.e-catv.ne.jp)

ホームページ: <http://www.eince-kodomo.com/>

## ～ はじめに ～

現在、松山市では経済格差で悩む子ども達が増加し、低所得家庭の子ども達は常に「自分たちに普通の平凡な未来は来ないのではないだろうか・・・。」

「何のためにこの不公平な社会の中で生きていけないといけないのか・・・。」

という不安や不満を持っている子が多くいるため 孤独感の心のケアが必要です。

低所得家庭の場合、保護者に時間の余裕や精神的な気持ちの余裕がありません。

北欧の子育てのように のんびりと子どもと触れ合い、絵本を読み聞かせたり 話を聞いてあげたりする時間もとれず、保護者の気持ちは日々の生活にいっぱい いっぱいとなって、子どもと向き合う心の余裕がなかなか持てないのです。 子どもは親に愛されて、家庭で愛を学びます。親に子どもを愛する気持ちはあっても、生活に追われ、子どもに愛を示す余裕がありません。特に母子家庭の保護者が増加している現代において、母は1人で子どもを抱える不安から常にイライラして子どもにあたったり、ヒステリーを起こし鬱になる傾向もあり 子ども自身が自分の親とどう接したらいいかわからず悩んでいます。

低所得の子ども達は「自分を肯定してもらうこと」「わがままを言っても許してもらうこと」

「頑張っている事に対して認めてもらうこと」「ただ無条件で愛してもらうこと」などの経験が少ないため、周りの友達と自分を比較し、妬みやコンプレックスなどに気持ちが支配されたり、自分の家庭や自分自身に対しても否定的な感情を持ちやすくなります。

そんな彼らの心が常に求めているものは、「受け入れられること」「許されること」

「認められること」「愛されること」です。

子どもなら誰でも親に要求することですし、愛のある一般的な家庭でなら当たり前のことばかりです。

彼らは「家庭と学校以外の場所に触れる機会」・「塾や習い事などの教育に触れる機会」も少なく、経済格差が教育格差へとつながり『貧困の連鎖』が起こっています。

よって、未来を早々にあきらめ投げ出してしまう子どもも多くいます。

こういった状況下において、子ども達が安心して関われる大人の存在は必要不可欠であり、

学ぶ機会の少ない子ども達には「学習支援」、未来の目標が見えなくなっている子ども達には

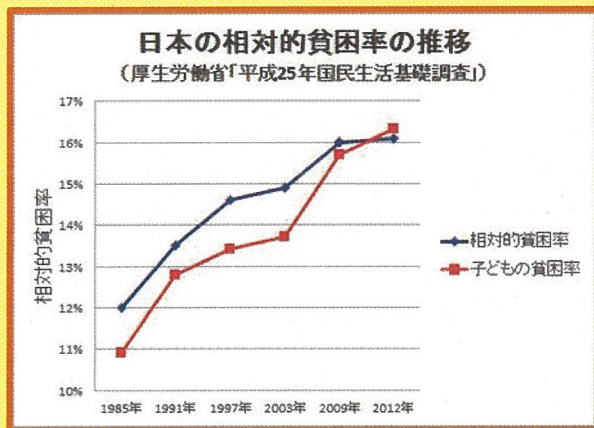
「職業体験・進路相談」、悩みを1人で抱え込んでしまっている子ども達には「悩み相談」などを提供して、早急に子ども目線での対策と心と身体の居場所 作りが必要です。

今回、私たちは「独立行政法人福祉医療機構」の助成を受け、多くの子ども達にさまざまな活動の場を提供することができました。また私たち自身も、現代における低所得家庭の実情を学び合い、現場の子ども達と触れ合いながら共に「こんな取り組みがあったらいいのに・・・」とよりよい活動の基盤づくりを実施しました。今回の事業が終わっても尚、この子ども達が引き続き『支援の手』を求めている状態であることを我々は真摯な姿勢で受け止め、社会全体が連携して「子どもが生きやすい・子育てに優しい街づくり」を目指せるよう推進していきたいと思えます。

# ～子どもの貧困とは？～

- **子どもの貧困**とは、その国の**貧困線**(等価可処分所得の中央値の50%)以下の所得で暮らす**相対的貧困の17歳以下**の子どもの存在及び生活状況を言う。
- 日本の相対的貧困の家庭の年収
  - ・両親と子ども2人の家庭 …… 244万円未満(月収約20万円)
  - ・シングルマザーの家庭 …… 平均就労収入 181万円
- 日本の**ひとり親**の相対的貧困率
  - ・無職では60%…30か国中ワースト12位
  - ・有業では58%…諸外国中ワースト1位

「日本は、仕事をする事が貧困率を下げることにならない唯一の国」
- 平成24年の「子どもの貧困率」は 16.3%(約334万人)となっており、日本の相対的貧困率は年々上昇を続けている。



子供の貧困率(%)

1	沖縄	37.5	17	広島	14.9	33	愛知	10.9
2	大阪	21.8	18	鳥取	14.5	34	静岡	10.8
3	鹿児島	20.6	19	岩手	13.9	35	千葉	10.4
4	福岡	19.9	20	大分	13.8	35	栃木	10.4
5	北海道	19.7	21	山口	13.5	37	東京	10.3
6	宮崎	19.5	22	徳島	12.4	38	群馬	10.3
7	高知	18.9	23	埼玉	12.2	39	石川	10.0
8	和歌山	17.5	24	新潟	12.0	40	秋田	9.9
8	青森	17.5	24	山形	12.0	41	三重	9.5
10	熊本	17.2	26	奈良	11.7	42	岐阜	9.4
10	京都	17.2	27	山梨	11.7	43	島根	9.2
12	愛媛	16.9	28	香川	11.6	44	滋賀	8.6
13	長崎	16.5	28	福島	11.6	44	茨城	8.6
14	岡山	15.7	30	佐賀	11.3	46	富山	6.0
15	兵庫	15.4	31	神奈川	11.2	47	福井	5.5
16	宮城	15.3	32	長野	11.1			

- 全国の「子どもの貧困率」を見て見ると、愛媛県は第12位であり、テレビでよく取り上げられている東京は第37位である。

# 平成26年度愛媛県ひとり親家庭実態調査結果の概要

(愛媛県ホームページより)

## 調査の概要

- (1) 調査の実施日 : 平成26年6月1日
- (2) 調査の対象及び客体 県内(松山市を除く)の母子世帯、父子世帯及び寡婦世帯を対象とし、児童扶養手当受給資格者等から市町の協力を得て無作為に抽出した母子世帯2,530世帯、父子世帯444世帯、寡婦世帯806世帯を調査客体として実施。なお、集計客体は、母子世帯811世帯、父子世帯158世帯、寡婦世帯238世帯である。

## 結果の概要

### 【母子世帯と父子世帯の状況】

区 分		母子世帯	父子世帯
ひとり親世帯 になった理由	離婚	90.4% (82.3%)	77.2% (73.1%)
	死別	0.5% (7.8%)	13.9% (22.4%)
養育費の受給状況		27.3% (20.6%)	6.6% (0.0%)
	平均月額	38,902円 (58,315円)	25,555円 (—)
就業状況		94.0% (89.2%)	94.3% (92.5%)
	うち常用雇用	47.9% (45.8%)	66.2% (71.0%)
	うち自営業	3.4% (5.4%)	23.6% (19.4%)
	臨時・パート	42.4% (43.1%)	6.1% (6.5%)
平均年間総収入(世帯の収入)		215万円 (206万円)	279万円 (407万円)
平均年間就労収入 (母又は父の就労収入)		176万円 (169万円)	243万円 (400万円)

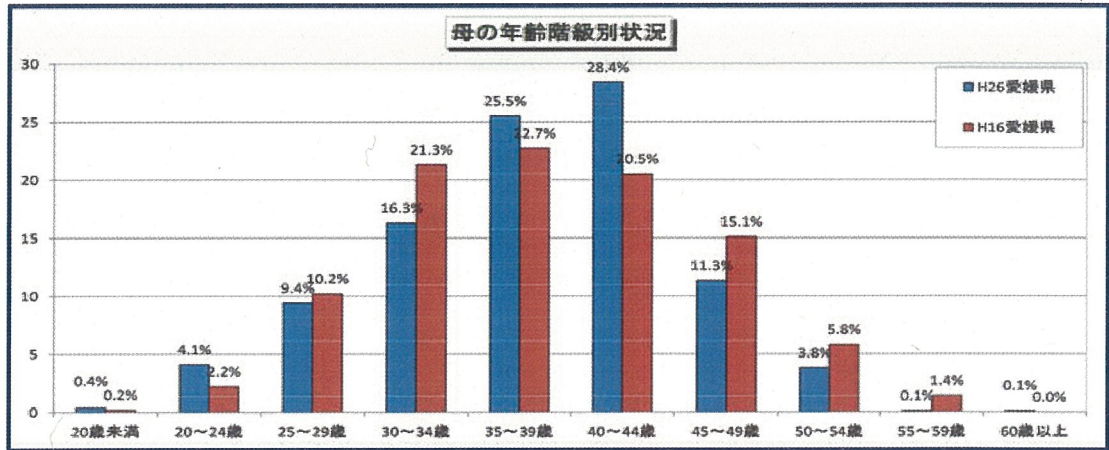
※( )内の値は、前回(平成16年度)の調査結果を表している。

※「平均年間総収入」及び「平均年間就労収入」は、平成25年の1年間の収入。

10年前に比べ離婚が原因でひとり親になったケースが増加しており、就業率も増えている。シングルマザーの養育費受給率は増えているが、3割にも満たない。平均年間総収入は働けども増えておらず、父子世帯の収入が著しく減少している所をみると、ひとり親家庭に関わらず愛媛県全体の世帯の収入が減少しているのではないかと考察される。父親の年間収入の低さが離婚の一因になっており、子どもの養育費も払えない状況にあるのではないだろうか？

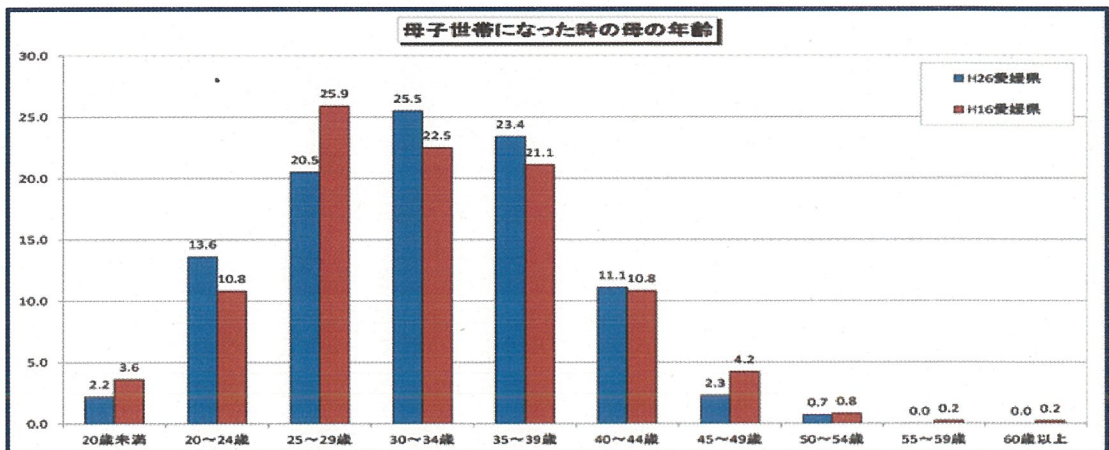
## 母子世帯の母の年齢

愛媛県における母の平均年齢は37.5歳で、全国平均39.7歳と比べて2歳程度若い。本県の場合は「40～44歳」が811世帯中230世帯（28.4%）と最も多く、次いで「35～39歳」が207世帯（25.5%）である。全国でも40～49歳（41.7%）が本県同様最多となっている。



## 母子世帯になった時の母の年齢

愛媛県では30～34歳が25.5%、次いで35～39歳が23.4%の順で高い割合になっている。平均年齢を見てみると本県は31.7歳、全国は33歳となっており、本県の方が若干若い年齢で母子世帯になっているといえる。



## 子どもの数

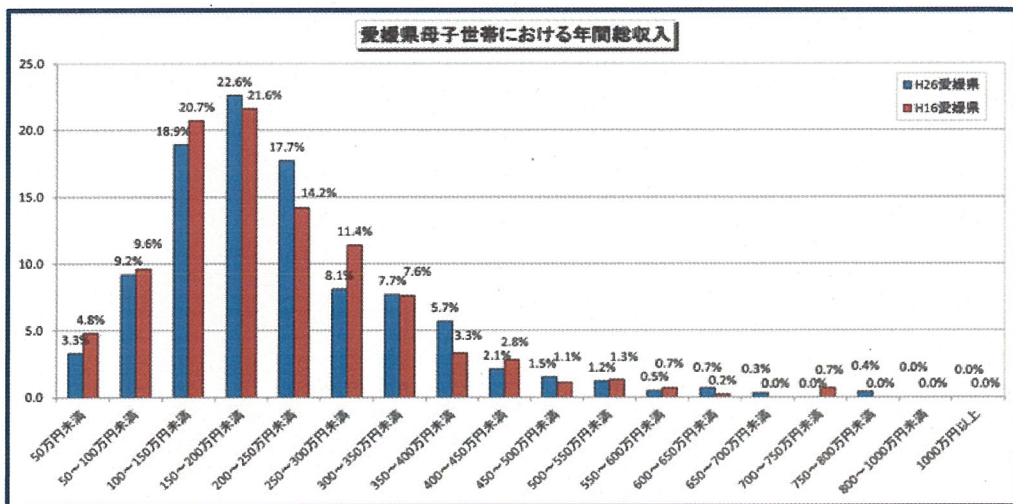
愛媛県では子どもの数が「1人」(48.6%)と「2人」(38.6%)で全体の8割以上を占めるが、全国と比較すると若干低くなっている。逆に「3人」(10.3%)「4人以上」(2.6%)では、全国を上回っている。

		総数	1人	2人	3人	4人以上	無回答	平均
愛媛県	世帯総数	811	393	312	83	21		21.67人
H26年度	割合	100.0	48.6	38.6	10.3	2.6		-
愛媛県	世帯総数	502	251	163	71	12		51.71人
H16年度	割合	100.0	50.5	32.8	14.3	2.4		-
全国	割合	100.0	54.7	34.5	8.9	1.9		-1.58人

## 年間総収入

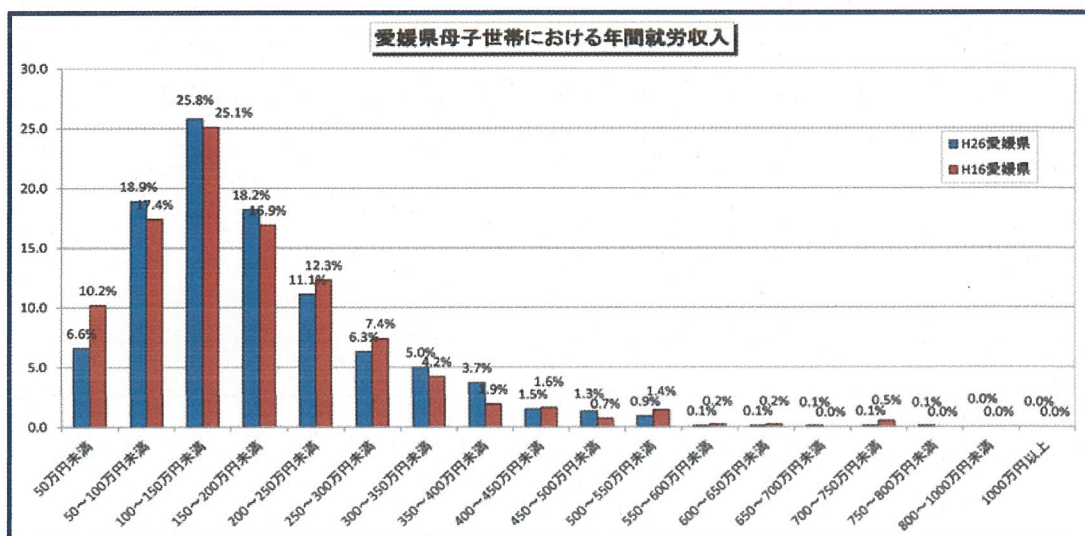
愛媛県の母子世帯の年間総収入は、『50～200万円未満』が22.6%で最も多く、次いで「100～150万円未満」(18.9%)、「200～250万円未満」(17.7%)「50～100万円未満」(9.2%)となっており、300万円未満の世帯が全体の79.8%を占め、全国数値の300万円未満の占める割合64.1%を上回っている。

また、300万円未満の収入ランク別では「100万円未満」、「100～200万円未満」は全国値よりも高く、「200～300万円」は同程度であることから、本県における年間総収入は、全国平均収入より少ないと思われる。



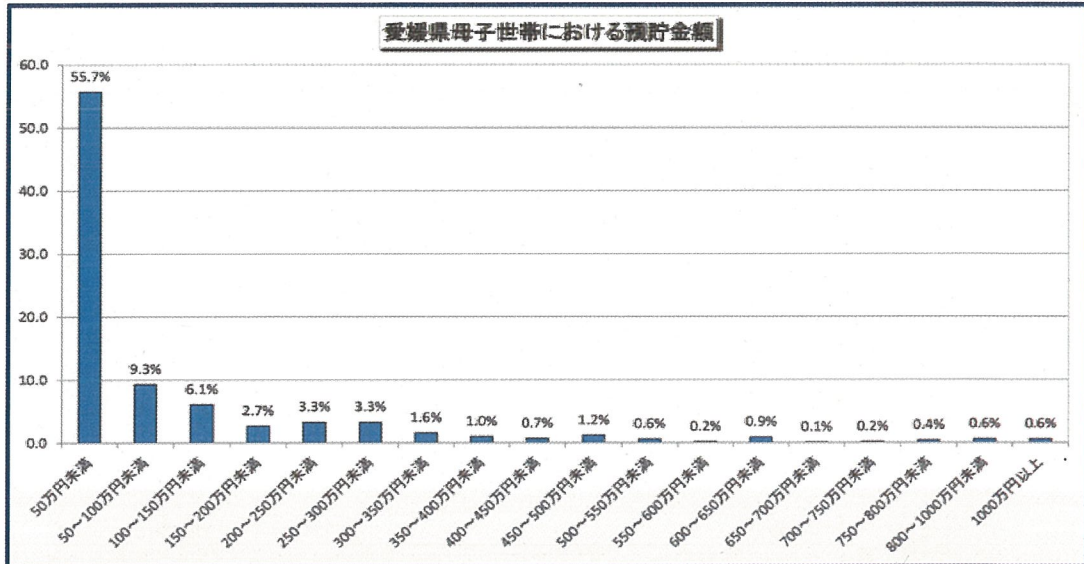
## 年間就労収入

年間就労収入は「100～150万円未満」が176世帯(25.8%)と最も多く、次いで「50～100万円未満」が129世帯(18.9%)となっている。全体の8割以上の世帯が年間就労収入250万円未満である。



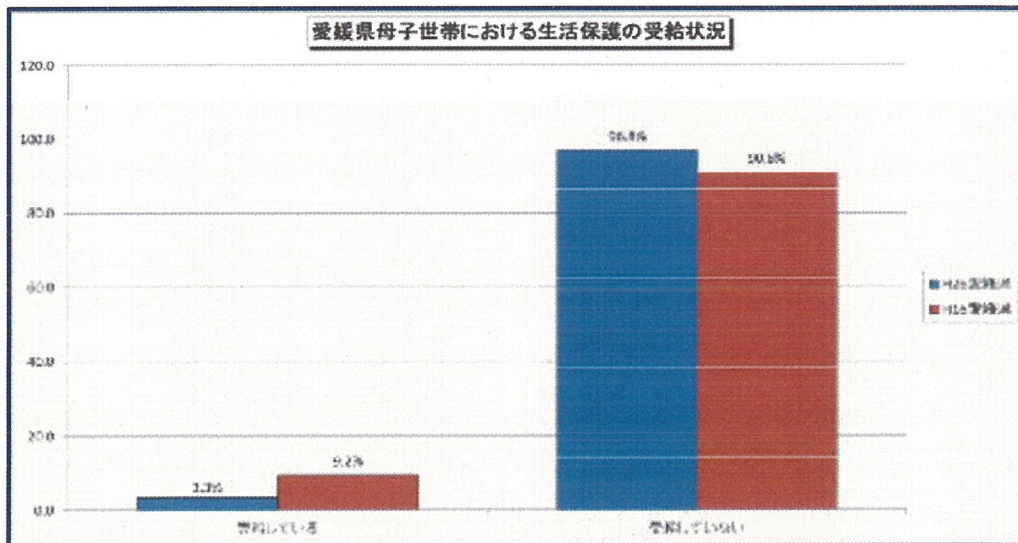
## 預貯金額

母子世帯における預貯金額は、「50万円未満」（55.7%）が最も多く過半数を超えている。次いで「50～100万円未満」が（9.3%）、「100～150万円未満」が（6.1%）と、150万円未満の世帯が全体の7割以上を占めている。



## 生活保護の受給状況

生活保護の受給状況は 3.3%の世帯が「受給している」で、大部分の世帯（96.8%）は「受給していない」となっている。全国では「受給している」世帯が14.4%で、愛媛県は全国の約4分の1しか受給していない。



なぜ全国平均より、受給率が4分の1しかないのだろうか？

田舎なので比較的安い金額で食べてはいけるが、それが反対に教育や進学などの格差問題として出てきているのではないだろうか？

生活保護は国民の等しい権利として、どの県も公平でなければならない。

就労収入も預貯金も低い愛媛の現実として、貧困の連鎖はくいとめるべきである。

# 平成27年度松山市ひとり親家庭実態調査結果の概要

(松山市ホームページより)

## 調査の概要

(1) 調査期間：平成27年8月1日～8月31日

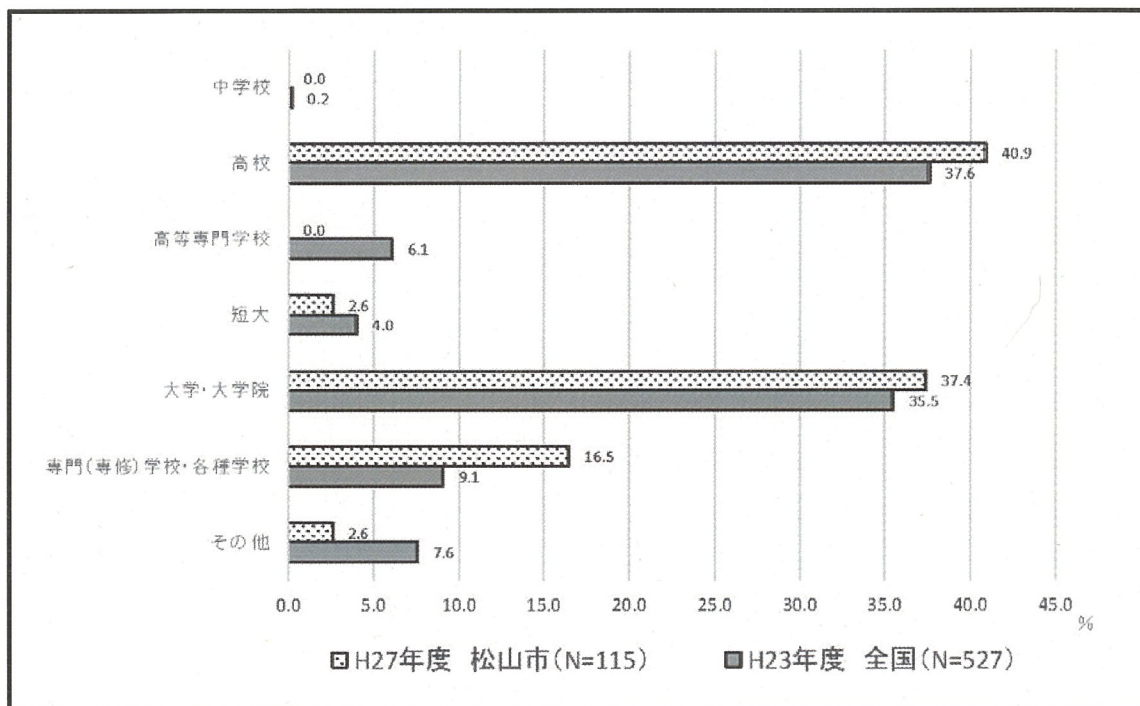
(2) 調査の集計と結果：

母子世帯 有効回収件数 799 件(有効回収率40.0%)

父子世帯 有効回収件数 124 件(有効回収率41.3%)

## 子どもの進学について

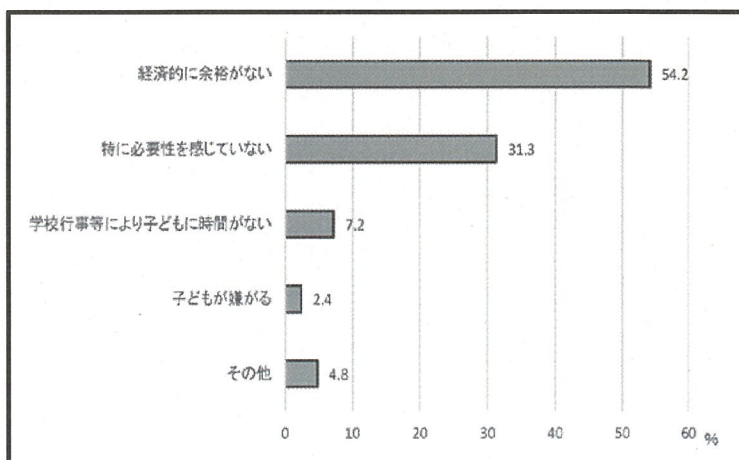
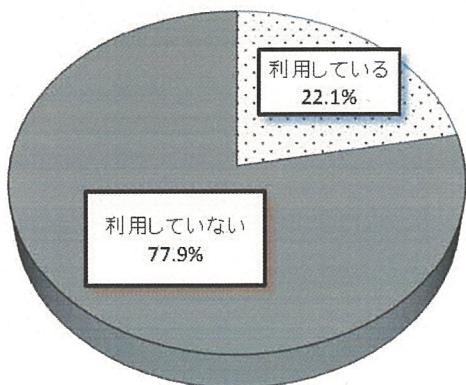
保護者が考える子どもの最終学歴は「高校」か「大学」までと考えている世帯が多い。



## 民間の学習施設について

民間の学習施設(学習塾や予備校など)を利用しているのは全体の約2割。

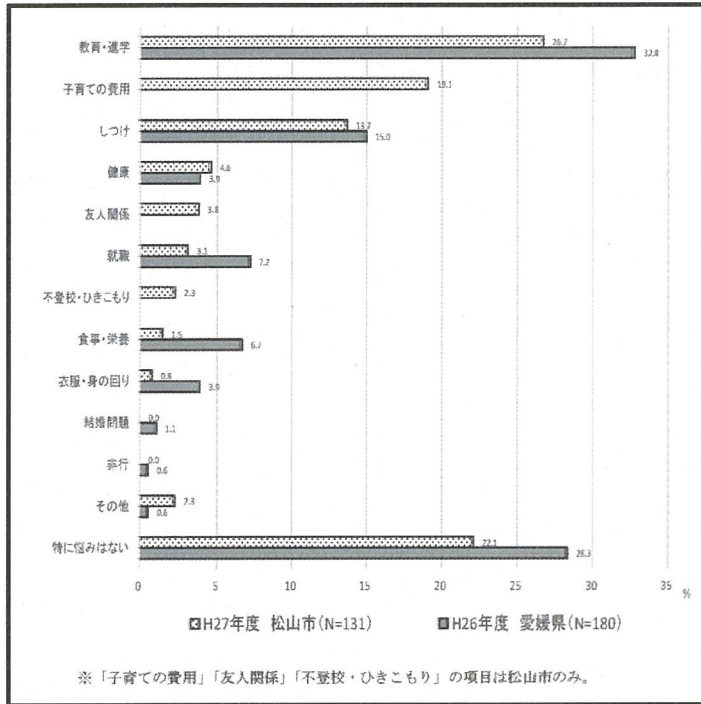
利用していない理由で最も多かったのは、「経済的に余裕がない」が54.2%である。



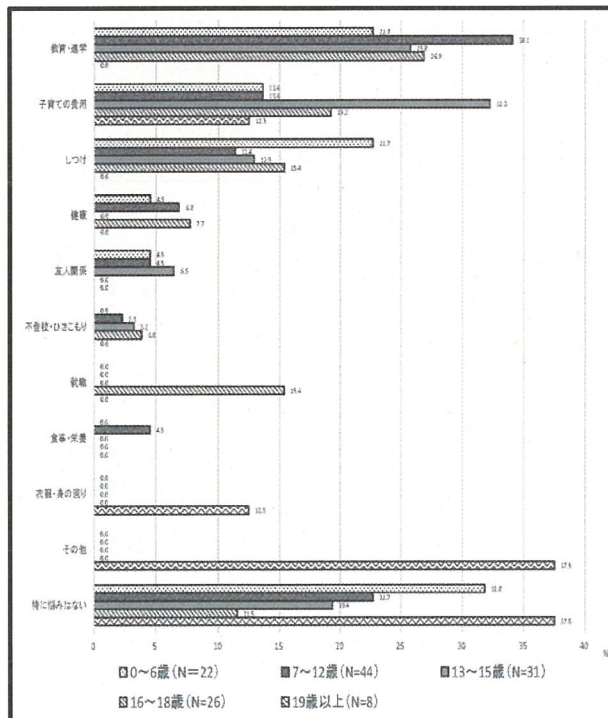


## 子どもに関する悩み

- 子どもに関する悩みでは「教育・進学」が最も多く、次いで「子育ての費用」となっているが、「特に悩みはない」という回答も22.1%と多くなっている。
- 子どもに関する悩みは、「教育・進学」「子育ての費用」「しつけ」の3つに集中しており、「食事・栄養」「衣服・身の回り」といった、生活面に関する悩みの割合は低い。
- 愛媛県も、子どもに関する悩みは「教育・進学」が最も多い。

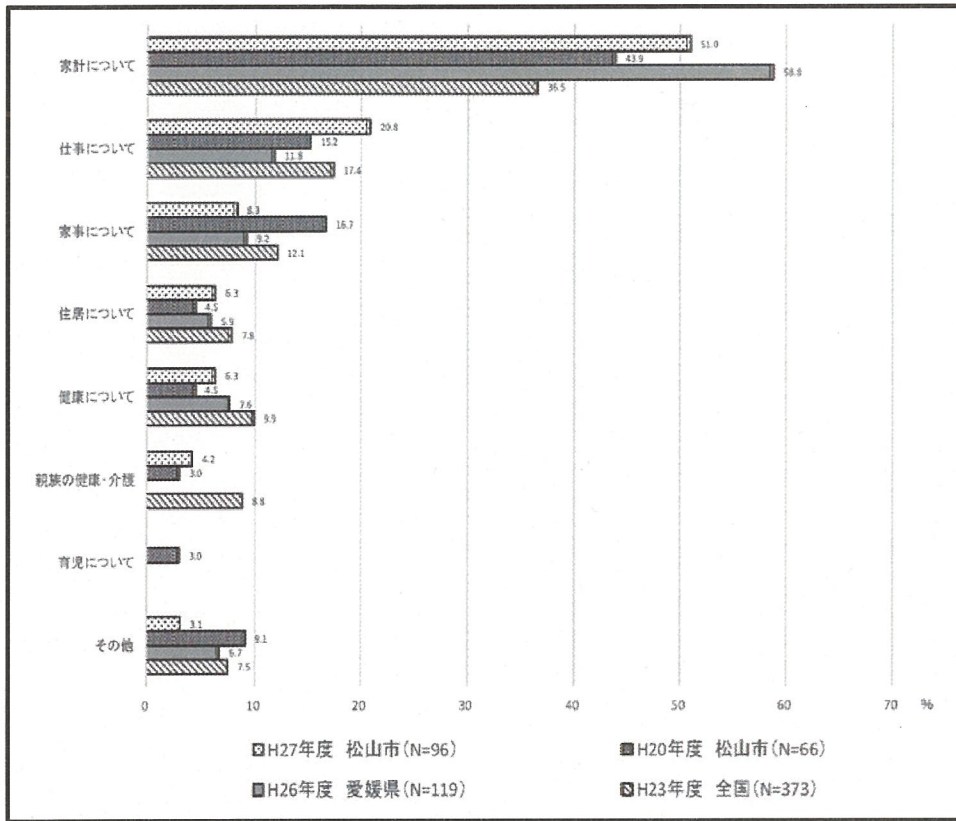


- 「教育・進学」についての悩みは、18歳以下の子ども、特に7～12歳の割合が高くなっている。
- 「子育ての費用」は年代で高い割合を示しており、特に13～15歳の割合が高い。
- 「しつけ」は0～6歳が高い割合を示している。



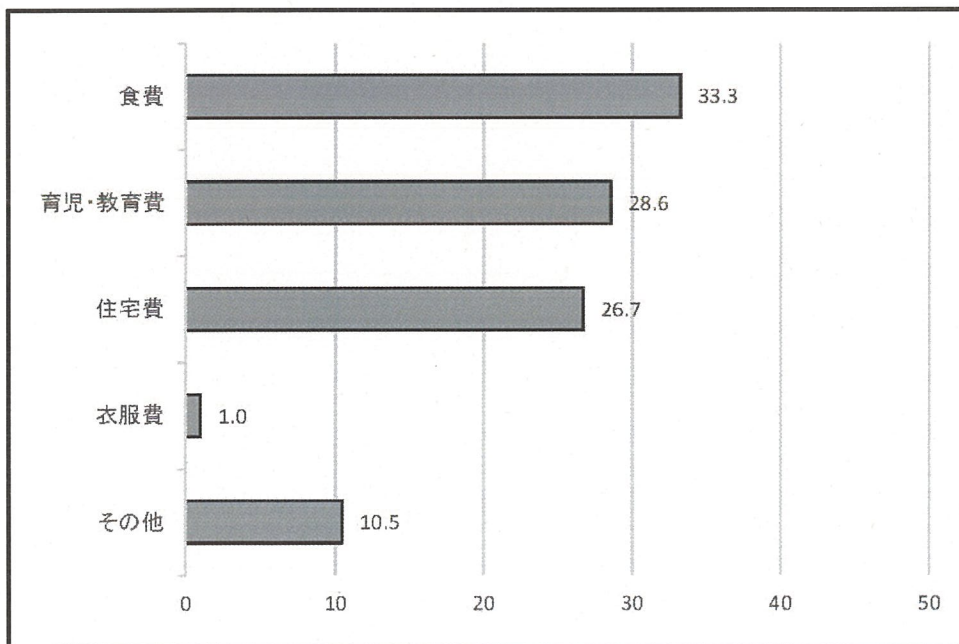
## 親自身が困っていること

自身が困っていることについて、「家計について」が51.0%と、最も多い。



## 「最も家計を圧迫している費用は何か？」

最も家計を圧迫しているのは「食費」で、次いで「育児・教育費」「住宅費」となっている。



## 主な自由意見

### 【母子世帯】

#### 【住居について】

- 公営住宅を希望しているが、順番を待っている状態。特に市営住宅は古く設備も悪く住みたいと思えない。毎年手続きに行くが順番がこないのなら意味ない！住宅、家賃面での補助、改善をしてもらいたい。

#### 【制度について】

- 放課後 子供が安心して過ごせる居場所を確保してほしい。フルタイムで仕事をしていると 午後6時に迎えに行けることはほとんど不可能。保育時間の延長や夜間保育施設の充実を希望しています。特に田舎で需要が少ないからといって全然そういった施設がないのもどうか と思います。1人親でも安心して子供を育てられるよう人口が少ない地域も充実させて下さい。
- 保育料や医療費等、前年度の収入を元にするのはおかしいと思った。離婚で収入が減っているのに、最初の1年が1番支援の欲しい時であった。市によって、保育料等不要のところがあり、同じ県内でこうも地区で違うのかと驚いたことがある。

#### 【経済支援について】

- 乳幼児・児童に対しての手当てや支援は良いと思いますが、本当に大変なのは、高校・大学等、子供が大きくなってからだと思います。金銭的な面で子供が行きたい学校に行けない場合もあると思います。母子家庭に限らず、小さい子供よりも大きくなった子供の支援をお願いできたら、ありがたいと思います。

#### 【就職支援について】

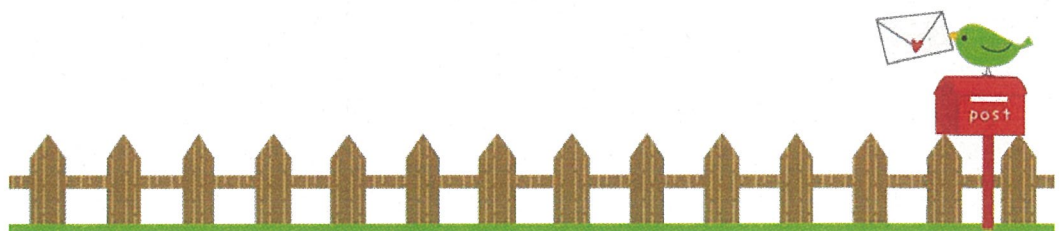
- 就職してないと保育園に入れる事ができないのはおかしい。就職活動もなかなかできず、お金も無いのに就職して、保育園に入れる手続きをするまで一時保育を利用したが、よけいお金がかかって、すごく大変だった。

#### 【広報について】

- 行政機関に母子家庭を応援する公的制度がたくさんあるのに、少ししか知らなかった。こういう制度があるなら申請して利用したいので、案内などを定期的に封書で送ってもらいたい。母子家庭であるので、こういう申請をしたいといわない限り、利用しづらいのは困ります。

#### 【その他】

- 周りに母子の知り合いがないので、もっと出会いの場があればと思いました。
- 仕事を休んで市役所等へ行くのが大変です。土、日も市役所等を開けてほしい。
- 養育費請求は、本人では（文章があったとしても）難しい事が多いため、行政にも助けてほしい。なかなか難しいとは思いますが、払わない人が多い現状を、払わなくてはいけないというものにしてほしい。



## 事業 1 「学習支援とスキルアップ勉強会」事業

### ① 活動目的

低所得家庭の子ども達の教育格差における不安さや不公平感をなくし、日常生活でのやりがいや達成感につなげること。また、さまざまなスキルアップ勉強の機会を提供することで、各々の自発的な意欲と目標を引き出すこと。

### ② 実施内容

週1回×3地区の「学習支援教室とスキルアップ勉強会」を開催し、子ども達1人1人に寄り添いながら、各自の可能性に気づかせた。また、参加に抵抗がないよう、友達も一緒に参加OKとした。

- 1) 小中学校の勉強
- 2) 漢字検定・英語検定など各検定勉強
- 3) パソコン学習・ICT教育・情報技術の勉強

### ③ 開催日

平成28年4月～平成29年3月 月4回×12ヵ月（計48回×3地区）

### ④ 場 所

松山市内 3地区

### ⑤ 対象者

低所得世帯の小学生・中学生とその友達  
学び直しの若者

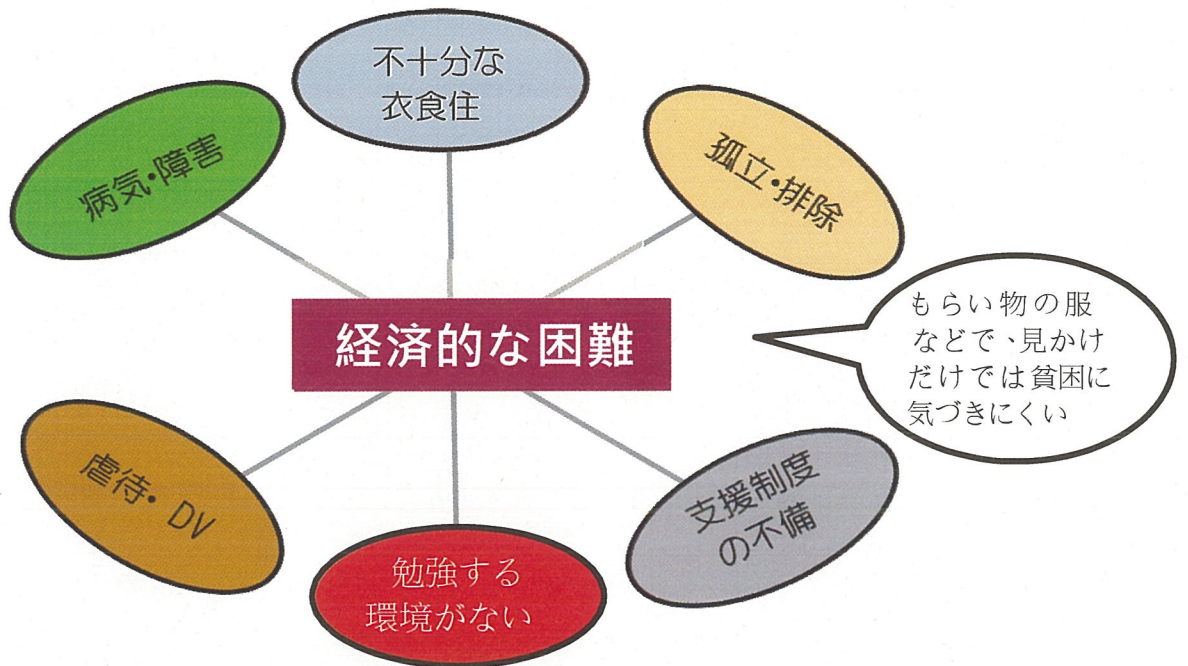
### ⑥ 参加人数



# ☆ 子どもを救うのは教育である！

## 支援を受ける子ども達の現状

- ・焦り
- ・コンプレックス
- ・深く傷ついている
- ・いじめなど、学校に行けない子も多い
- ・将来に対する目的が見えない
- ・勉強の遅れを恥ずかしくて質問できない
- ・就職・進学情報を得たくても、パソコンがなくインターネット環境も整っていない



問題は複雑に関わっているため、学習支援をしながらもさまざまな相談にのる必要がある。  
精神的な不安定さを緩和させるために、一般の子どもと同じ立場でのコミュニティを心がけ、できるだけコンプレックスを感じさせないよう配慮する必要がある。

できるだけ褒めて子どもに自信をつけさせ、やりがいを持たせる。  
期間中だけでなく、後にヤル気が続くように目標と達成感を育む。

## 事業 2 「いろいろ学ぼう！職業体験」事業

### ① 活動目的

低所得家庭の子どもや若者たちの将来に対する不安の解消と将来につながる目標や夢を育むこと。実際に仕事を体験して、その楽しさや苦勞を学ぶと共に、その職業についている人達の仕事に対する姿勢から、生きる力を学ぶことを目的とする。

### ② 実施内容

さまざまな職業体験を行い、子どもや若者達の「したい！なりたい！」の  
前向きな気持ちと社会と関わる意識を引き出した。

- A. 最先端テクノロジー
  - ・3Dプリンターものづくり
  - ・パソコンプログラミング
- B. 食品サンプルづくり
- C. 介護福祉士・理学療法士の仕事
- D. 子どもキャリア教育 店長体験

③開催日 平成28年4月～平成28年12月（年10回）

④場 所 松山市内

⑤対象者 低所得世帯の子ども・若者（友人含む）

A. 3Dプリンターものづくり	小学生～若者
パソコンプログラミング	小学生～若者
B. 食品サンプルづくり	小学生・中学生
C. 介護福祉士・理学療法士の仕事	高校生～若者
D. 子どもキャリア教育 店長体験	小学生・中学生

### ⑥参加人数

A. 3Dプリンターものづくり	
パソコンプログラミング	
B. 食品サンプルづくり	
C. 介護福祉士・理学療法士の仕事	
D. 子どもキャリア教育 店長体験	

# ☆ さまざまな体験が将来への夢につながる！

日本人の子供が就きたい仕事ランキング (小学生対中学生)

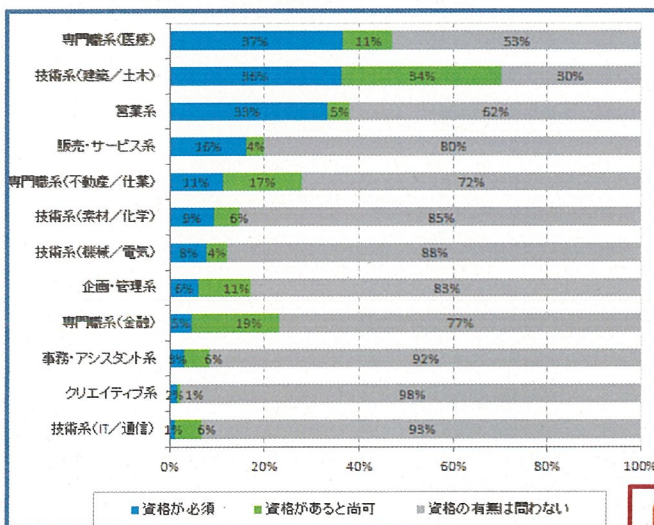
	小学生				中学生			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
1位	サッカー選手	16.3%	パティシエ	24.6%	医者	10.0%	パティシエ	16.0%
2位	野球選手	11.4%	医者	8.6%	野球選手	7.3%	先生	12.0%
3位	医者	7.1%	先生	6.6%	建築士・大工	7.3%	医者	10.0%
4位	学者・博士	6.6%	お稽古事の先生	6.6%	先生	5.3%	作家	4.7%
5位	警察官・刑事	5.7%	漫画家	4.6%	パティシエ	5.3%	野球選手	4.0%
6位	運転手	5.7%	野球選手	2.3%	サッカー選手	4.7%	漫画家	4.0%
7位	建築士・大工	4.0%	サッカー選手	2.3%	警察官・刑事	4.0%	歌手	4.0%
8位	パイロット	3.1%	俳優・女優	2.0%	運転手	3.3%	俳優・女優	3.3%
9位	宇宙飛行士	2.9%	建築士・大工	2.0%	宇宙飛行士	3.3%	お稽古事の先生	2.7%
10位	救急・消防士	2.6%	弁護士	1.7%	救急・消防士	2.7%	サッカー選手	2.7%

※ N: 小学生 700 人、中学生 300 人

子どもが就きたい仕事の上位10位内には、専門資格が必要なものが多く、また体験の機会も必要である。

大企業の生涯雇用や安定基盤のイメージも崩れ、就職しても若者の離職率が高い現代では、各自が希望する職業に就く方が結果的には貧困対策になるのかもしれない。

## 資格が必要な求人割合



各自が希望する職業体験の機会を提供し、仕事の意味とやりがいを実感させる。期間後も将来の目標につながるよう、仕事に対する学ぶ姿勢を育む。



### 注目! 技術系の職場で人気の資格

No.1	プログラミング能力	652
No.2	SE能力	434
No.3	ネットワーク技能	395
No.4	CAD技能	361
No.5	建築士	240
No.6	パソコン技能(ワード・エクセル)	190
No.7	サポート・ヘルスデスク技能	189
その他	ITの職場では、Unix技能、ソフト開発、統計・データベース技能といった専門的な知識への求人が目立ちます。	



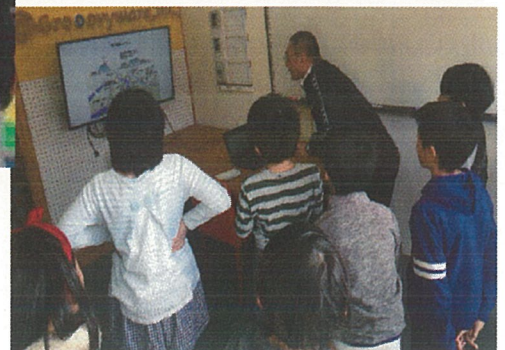
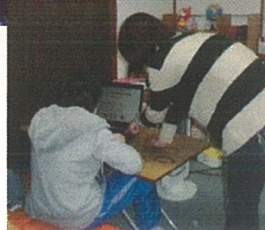
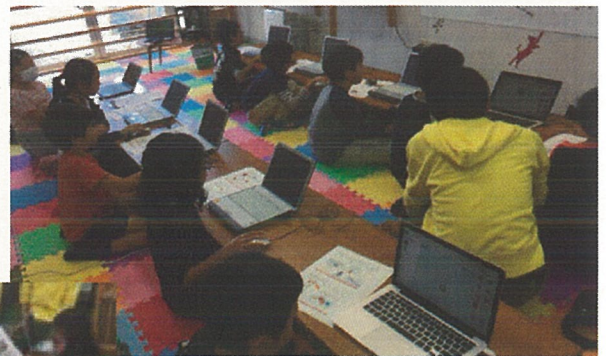
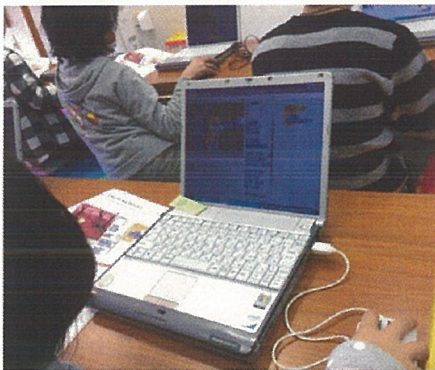
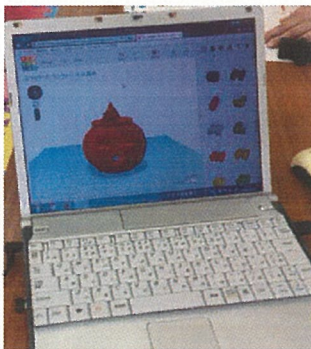
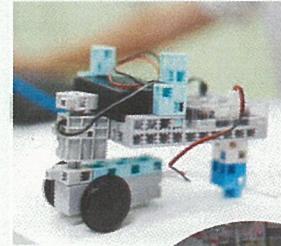
## A. 3Dプリンターものづくり&パソコンプログラミング

### 内容

低所得世帯の小学生～若者達の活動として、彼らが身近な科学とふれあい、ワクワク感を引き出す事で、日本の新分野の職業への興味を図り、自分の将来における可能性に気づき、未来への目標や意志につなげることを意図として実施。  
彼ら自身が、実際にIT関係の職についている人達の仕事に対する姿勢を学ぶことで、前向きに大きな世界に出ていく希望と勇気を育むことができた。



3Dプリンターは、1つ作るのに1時間以上かかり大変でした。

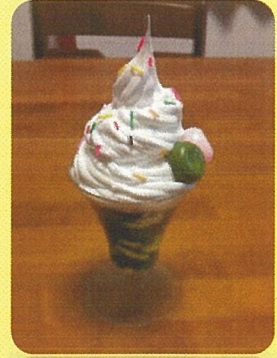




## B. 食品サンプルづくり

### 内容

低所得世帯の小中学生のものづくり活動として、彼ら自身が自分で何でも作り出せる能力に気づき、人のために役立つ喜び・達成感を感じさせる事を意図として実施。参加者たちは、さまざまな器具や道具を使いこなすことで生活につながる技術と知恵の修得につなげることができ、また各自の発想力のもと自由に製作して新しいアイデアや方法などを生み出すことができ大満足だった。



初めての体験に  
みんなドキドキ♡

## C. 介護福祉士・理学療法士の仕事

### 内容

低所得世帯の高校生・奨学金返済を抱えた大学生・就職が決まらない若者達の活動として、彼らが年配者とふれあい寄り添いサポートをすることで、人と向き合う事の大切さや社会的な役割を学ぶ事を意図として実施。地域住民を対象としたイベントも開催。彼ら自身が少子高齢化時代のあらたな労働力としての自分の責任と役割、社会との関わりを身に染みて感じる事ができ、今後の連携体制も構築できた。

### ☆ リハビリデイケア・・・『基本マナー心得』

#### 1. すべては笑顔の挨拶から

- ・挨拶は、相手の目を見てゆっくりと
  - ・相手を敬う心を忘れない
  - ・話し上手よりも、聞き上手
  - ・接客は、きれいな言葉と姿勢から
- 『声がけは、信頼づくりの第一歩！！』

#### 2. 相手の目線で物事を考える

- ・忙しいと、相手への気遣いを忘れる
  - ・仕事に慣れると、細かいところまで目が届かなくなる
  - ・同じ作業に飽きてしまう
- どんな時でも『利用者第一！！』

#### 3. 常に学び、成長する

- ・技術・道具は常に進歩している
  - ・1年1年がまったく違う世界である
  - ・技術・保険・資格など、学ぶことはたくさんある
- 『いつでもどこでも学ぶ機会はある！！』

#### 4. 完璧を求めない

- ・相手は生きている人間である
  - ・人は常に感情や体調が変化する
  - ・どれが正しいかはわからない
  - ・完璧を答えにしていけない
- 『よりよいサービスを目指す！！』



## D. 子どもキャリア教育 店長体験

### 内容

低所得世帯の小中学生のキャリア教育を含めた活動として、彼らが店長になり接客業をすることで、人間相手の仕事のやりがいや社会的な役割を学ぶ事を意図として実施。彼ら自身が互いに協力して話し合いながら店を運営することで、各自の責任と役割の重要性を認識し、仕事に対する姿勢の持ち方や人との関わり方、社会の流通システムのしくみなどを学ぶことができた。

## ☆ キャリア教育・・・『流通のしくみ』

### 商品の流れについて



### 商品の販売について

1. 何の商品があるか把握しよう！
2. どの商品がいくらか覚えよう！
3. 商品の並べ方を考えよう！
4. 接客の仕方を考えよう！



自分がお客だったら、どうだろう？



### ☆ 仕事の学び ☆

1. 報告・連絡・相談 (ほうれんそう)
2. 自分の役割・仕事への責任
3. 創意工夫(周囲をよく見て！)
4. コミュニケーションの大切さ

ディズニーランドは優先順位を決めて成功しているんだよ☆

自分で考え、行動する!!

上にいくほど、大切だよ！

### 運営・管理について

1. 商品ごとの在庫を把握しよう！
2. なくなった商品の補充をしよう！
3. 金銭の管理をしよう！
4. 効果的な宣伝を考えよう！



自分のお店だったら、どうしたい？



## 事業 3 「悩み相談・生活サポートと 異年齢ふれあい居場所づくり」事業

### ① 活動目的

低所得家庭の子ども達が安心して何でも相談でき、学校や家庭では出せない悩みや不安などを共有し、問題の対策について共に考える居場所づくり。異年齢の交流により、互いがそれぞれの個性を認め合い、支え合える心のつながりを育む。

### ② 実施内容

月1回の悩み相談会とともに、各個人にあわせた生活サポートを実施した。また、異年齢でのふれあい活動を実施し、「コミュニティ&語り場」とした。

#### 生活サポート

普段子どもに行き届いていない親の役割(料理・洗濯・清掃など)を子どもに教えながら実施し、自立へと導く

#### 異年齢ふれあい活動

- E. ボードカードゲーム
- F. 造形アート
- G. 自然体験

### ③ 開催日

平成28年4月 ~ 平成29年3月 12回×2分野 (年24回)

### ④ 場 所

松山市内

### ⑤ 対象者

低所得世帯の子ども・若者・保護者 (友人含む)

E. ボードカードゲーム	小学生～大学生 若者
F. 造形アート	
G. 自然体験	

### ⑥ 参加人数

悩み相談・生活サポート	
E. ボードカードゲーム	
F. 造形アート	
G. 自然体験	

## ☆ 現場でこそ見えてくる問題がある！

### 親の姿勢から見えてきた問題

・生活保護を受けている家庭では、子ども達から「親は働けるのに働く気が全くなく、生活保護に依存していて恥ずかしい」との意見も多く聞く。

・ネグレクトの保護者も多く、生活に関わる洗濯や掃除などに対する感覚が子どもにも連鎖しており、子ども本人が友達から汚い等と非難の声を浴びても直らないため、人間関係に影響が出る。

・保護者が、自分の嗜好品や化粧や遊びにはお金を使うが、子どもの教育や必要な物に対して、お金を使う感覚がないため、子どもが風邪をひいても薬がなかったり、寒い冬に寝具や暖房器具などが整備されていない家庭も多々ある。それなのに、スマホやゲームなどは早くから持たせる。



### 子ども食堂から見えてきた問題

・シングル家庭の利用者が多いが、親子で仲良く参加する家庭が多いので、親と一緒に行く状態にない1人ぼっちの子どもにとっては孤独感を感じたり、妬みやひがみを感じてしまい、行きづらい。

・友達に家庭状況を隠して「恥ずかしい」と感じる子どもも多く仲の良い友達と一緒にだと行きやすくなるが、食材代や光熱費など継続するには経費面での問題がある。

・食べた事のない食材への抵抗や、保護者が調味料を使わず味覚障害になっていたりして、皆と同じものが食べられない子もいるが、迷惑をかけたくなくて子ども本人が言い出せない。

### 子どもと接する時間の問題

・生活費を稼ぐために働かないといけないので、仕事に縛られ子どもと接する時間がとれない人も多い。特にシングルマザーは、仕事をかけもちしていたりシフト制の職についていたりするケースも多く、子どもが家にいる時間に合わせて自由に時間調整などできない環境にある。

・金銭面や時間等の問題で、休日に出かけたり旅行などに行ったりすることも少なく、子どもは周りの他の子に比べて圧倒的に様々な体験などの経験値が少ない。

・子どもがどこに行っているかの管理ができないため、早いうちからスマホを持たせたり、家にいるようゲーム機を買い与えるケースが多々ある。



### 気持ちが自立にいかない問題

・シングルマザーの多くが、自立できる技術や資格を身につけないまま恋愛してすぐに結婚・出産にいたっているケースもあり、その分結婚回数も多かったり子どもの人数も多かったりする。離婚後、自分1人で子どもを抱える苦労を味わい、生活不安から鬱病になるケースが増加している。

・気持ちが子どもにではなく、男の人に甘えたり頼ったりすることに向いていて依存体質になっている人も多々いる。

・シングルマザーで、子どもに男の子がいる場合、その依存型は長男に向かう傾向が強い。本来、子どもの自立・独立を喜ぶべき親の姿勢は崩れ、自分の将来を息子に面倒見てもらおうとする意識が見える。

## E. 異年齢ふれあい活動 『ボードカードゲーム』



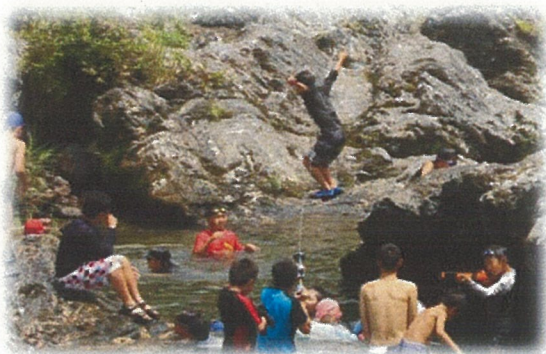
## F. 異年齢ふれあい活動 『造形アート』



スター  
ドーム



## G. 異年齢ふれあい活動 『自然体験』



その他、たくさんたくさん触れ合いました～♪

